

昭和15年10月1日（火）

曇り、次第に天気悪くなる。ミワさん四時起床。仕度して四時三十分、整列して神詣で。五時半戻る。午後より降雨。可なり冷ゆ。国勢調査申告書提出す。防空演習、夜半十二時より開始に決定。東京大角力来たり、五日間滞在となる。蓋し防空演習出勤者を相手とすべきに、興業するも観客なければなり。西牟田さん六時過ぎ走りて来たり、遂に間に合わず、二階にて遊び居る。駒次より返事来るも相手の役場より見れば、名義はミサと指定あり。それで筋違いにより返事せぬと云ふにも一応の理窟はあり、宜敷く頼み置き呉れと謂ひやりぬ。二流処の角力来たり、竹屋にも泊まり居る。出羽湊及び桜錦を大関とし、九州山を張出大関としあり。此の日は燈火管制もなく、十時寝床。

昭和15年10月2日（水）

曇り、午後多少晴れ模様を見しも、四時前後より降雨。朝、水桶を出す。林コウ氏よりラジオの申込みを尋ね来る。作成したるも送付書、巖方にあり。合馬氏、代引き小包受取りに見ゆ。流し樋を造ることに就いて相談す。早速、屋主に咄し呉れらる。折節、壁左官働き居り、夫れが見に来たり。土管を持込みセメントにて調製し呉れらる。燈火管制。貯金事故、西牟田氏扱い30円来る。

昭和15年10月3日（木）

曇り、夜中猛雨。午後より細雨。切手受取りに行く。朝も請求書持行き、途中、空襲警報発令にて交通遮断に引っかかる。本町にて戦車拾輻程、定間隔にてスピードを揚げ驀進し来るに逢ふ。（切手請求袋より紙幣取出すとき、

拾銭玉一枚亡くす)。此日、本格的各班共、活動開始。六時、西牟田氏販りに立寄る。電話にて依頼せし故なり。事故内容咄す。夜ミワさん出勤。燈火管制にて仕事出来ず。座敷にて点燈、皆、此の部屋に鶴首。此の日訓練の為、余も出動の要ありしと。

昭和15年10月4日（金）

快晴。四時過ぎまでに夕食をとろろ汁にて済ます。出動の態制にて待機す。午後五時前、自動車屋の事務所に至る。靴屋主人に挨拶、部署に就く。夜は七輪に火を起こし暖を採る。開放式とて露天同様。毛布を持来し貰ふて、くるまる。かき餅、御握り飯等出るも余は食はず。夜は十時前にて警戒警報に入ったり。午前一時頃、裏に住む若者の例に倣ふて、自動車に入り一時間半寝る。駅前果物屋主人のみ腰かけにかけた俣居眠りし、遂に自動車に入らず。午前三時二十分頃より名古屋方面、早くも空襲警報発令ありて五時頃解除。余は四時より帰宅。上厠、身体摩擦し、五時再び原位置に就く。六時二十五分空襲警報、六時五十分解除。余此の間を利し帰宅。朝食を済ます。十時巖を訪ね行く。饅頭40求め至れば、巖前夜活動、今朝集金に行ける由。両児一見逃げ去り、再び出て来る。智子未だ脚立てず。帰局すれば道子より、貢氏六日午前九時に中津着の旨、通知あり。睡魔頻りに至る。ミワさん一時三十分、隊伍を組み公園地に講評を聞きに行く。偶々公報彙報捜す。去る月二十日、仙台大町正七、勲七、野村八十吉死去の記載あり。猶、春秋に富む同氏の死去に対し、轉々哀悼禁ぜず。今夜打ち上げ会開催の由にて、余等夫婦の出席を促し来る。ミワさん一人に任す。

快晴、秋晴れの上天気。其の代わり夜半の冷気は身に沁みて寒し。以上は四日より五日にかけての記事なり。

昭和15年10月5日（土）

防空演習は午前中に終了。今日は飛行隊より爆弾投下の筈にて、木を組みたる高櫓を造り監視する者多し。木内氏も此日出動監視、哨（しょう）として活動し居らる。

昭和15年10月6日（日）

此朝便所掃除。髯剃り。朝食を済まして、九時より貢さんを迎えに駅まで行く、不来。次の十時の急行を迎ふ、不来。電報来たり十一時着と、即ち、三度迎えに行く。色々話す。間もなく十一時五十五分、宇佐行きバスに乗るべく皆を促し出発。余は弁当屋より、40銭弁当三ヶ求む。今朝ミワさん、愛国パン10にて参ヶ求め来らる。これにて大抵間に合うべし。間もなく発車。四日市にて繰越し。三十分待ち別府行きに乗る。往復一人90、宇佐着一時半。上宮に参詣するに目下御造営中、御神体は下宮に奉祠あり、乃ち下宮に詣で境外にて昼飯を頂く。恰も神社、新聞社等主催の中等学校角力大会あり。土産物、飴1,00のもの二（巖、道子）、50銭一（伊勢氏見舞）を求む。四日市より稍、腰掛け空きたるも、其れ以前は立通しなりし。六時無事着。

昭和15年10月7日（月）

晴れ。昨は稍曇りありしも、今日は上天気。朝は松茸飯、夜は鮎。巖朝立寄り、貢寝て居るを起こす。愛子腎盂炎と云ふ。乃ち曩に、ミワさん石黒より求めし新薬残りを遣る。切手請求及び受取りに中津局行き。四時よりは石狩、

光善寺及び中殿大木に行く。大木のみ不在。夜巖来たり、九時過ぎまで貢と咄し果物土産に持参。当方より白酒一、峯にも一。猶、伊勢氏より贈られた蛤しるこ二十個入りも貢氏へ。

昭和15年10月8日（火）

朝晴れ、後曇り。貢氏、今朝八時五十三分にて福岡は澄子への土産、巻鮓。今朝ミワさん吾妻鮓に注文の分、受取りに行き持参さる。澄子へは昨四時前、速達発送す。余とミワさん送る。珍しく乗客少なく好都合なりし。定時発車。一方甚十郎氏、大阪より電報にて明朝到着の電報あり。終日冷氣。此日、大木分貯金追加報告、50銭弁償せり。来たる十八日靖国神社臨時大祭、休暇を賜る旨公報あり。靴屋にて赤坊安産、男子なりとて、一戸一円二十銭づつ醸集。一方鷹雄主人容態悪化、今日明日に迫れる由。

昭和15年10月9日（水）

快晴。昨夜道子への小包梱包、本朝発送32。鷹雄吉蔵、昨夜十一時死去の報あり。店子等、皆手伝いに行き居る由。朝九時甚十郎氏来たる。ミワさん迎えに行く。挨拶して仕事にかかる。同氏は耶馬溪探勝に赴かる。羅漢寺をも観て五時販り、風呂行き。ミワさん終日外出。国債の予約、角野氏に療治と。夕刻販らる。此の朝、冷氣甚だし。日中は割合に温暖なり。此の夜ミワさん鷹雄へお伽（とぎ）に行かる。皆男子のみ加わるとのこと。松永洋服店に襯衣需（もと）めに、甚十郎氏を連行後、出掛けらる。余の代理と云ふ。此の夜、鰻の蒲焼きと指身とあり。甚十郎の為に求めらる。鷹尾に見舞として、一戸1,

51徴収。余支出す。伊勢氏の為に求め来たりし宇佐土産を、小包にて発送す。

昭和15年10月10日（木）

快晴。切手請求にミワさん行く。其の際甚十郎氏を連れて、福澤先生別邸を訪ふ。貢氏と記念館にて記念帖に、観覧者芳名録に記帳しあるを見て、館主兄弟を熟知し居ると。午後一時十五分にて発車を送る。午後一時竹尾にて、昼食を鷹雄氏に依り招待さる。不行。甚十郎氏年金契約。ナル子さんの為に、五十歳支払開始の下に、三拾円余の仮受け金受領。土産に白酒やる。

昭和15年10月11日（金）

快晴、朝の間冷氣。戸外道路掃除。向い側の肉屋休店。夜第一生命の首藤氏紹介にて、画家某来たり。一時間咄して、50銭にて画撰紙一枚貰う。八時退局。

昭和15年10月12日（土）

快晴。朝、切手請求及び受領共、余行く。お蔭にて多少温まる。余中津局行き不在中、唐津局中山補臨局。耶馬溪に向かふ販途、立ち寄るとのこと。夕飯饗応を要すべき旨咄す。四時過ぎ来局。石川主事の名刺を差出す。剩す処僅かに十分、茶を啜り小倉に向かふ。お副食は野口氏等に分配す。昨朝より亀の子束子、一ヶ30にて二ヶ購入使用す。駒次より証明書送り越す。乃ち逡信局に発送す。照宮様、明朝十時急行にて宇佐に向はる。

昭和15年10月13日（日）

曇り後雨。午後0時半頃より国防婦人会連、豊田小学校

前に堵列。午前十時十七分、急行にて宮様御通過。野口氏等、踏切近くにて奉迎す。宇佐神宮御参拝、昼食を召し上られ、自動車にて当市を經、耶馬溪に。其れより由布にて緬羊の飼育状況を御視察。別府の日名子旅館に御宿泊遊ばさる。宮様御年十六、学習院制服姿にて、御付き女官等を随へさせらる。ミワさん等、国防婦人の徽章にて御奉迎送す。一時二十分、林檎及びバナナ、一同篩分け持参、伊勢を見舞はる。野口氏腫脹出来、行かず。五時半頃、小雨降る中を伊勢さんの姉さんに送られて販らる。甘藷、柿餅等土産豊富。白米二、鰯の素一袋も付けて下さる。

昭和15年10月14日（月）

曇り、温かなり。野口さん顔にホロシ出来、相談所に電話し、管家原さん特別の取扱いを以て、第一位に診て貰ふて下さる。注射及び薬一週間分求む。計1,20支払ふ。此朝、伊勢さんより頂きし甘藷を食膳に供さる。森田さん方へは、生のもの御すそ分けす。美味。夜はお鰯を頂く。これも野口さん等に贈る。降雨午後歇む。切手請求は此日なし。夜温かにて蚊多し。

昭和15年10月15日（火）

曇り、少雨。切手請求にミワさん行く。九時過ぎ雨歇む。午後より快晴となる。電燈、朝六時三十分消え、午後五時点火に際し点火せず。六時近く蠟燭3を求め点火。七時近く点燈す。八時よりミワさん風呂へ。去る四日の貯金事故は下関貯金支局にて承認し来たり、余の責任解除す。切手受取りに行き、販りに無花果（一ヶ4厘）十五銭全部を求めて貰ふ。夜頂く。

昭和15年10月16日（水）

曇りなるも、時々晴れ。午後三時過ぎ、森田さん大分に出発。余、夕食後窓口に至るに、中津局より資金過超金受領証を送付し呉れぬとて、大分立腹の様子。自分が行くと既に悲鳴を挙ぐる始末に、余代わって中津局に行く。飯途熟々思ふに、四時以後を野口氏に任せることは、自分の責任上感心せぬ。六時迄居残り、門扉閉鎖後出発するこそ適当と思ひ返して、窓口頑張る。そこへミワさんが来て、何も知らぬこととて仕度せよと云ふ。六時後にせる旨を通告したるに、電報を以て通知し置くべしと云はる。夫れも宜しからんと云ふうち、野口氏余の側に来て、是非四時ので出発し呉れと嘆願す。乃ち諒として、急に仕度して出発す。時間は恰度よかりし。ミワさんは鮎を受取りに行くやら顔の造作に、午後より殆ど出局せず。斯くて、定刻より幾分遅れて発車。小倉にても幸に空席あり。八時到着。南新町より歩行。澄子は門扉を開放して待ち居る。お土産、前記鮎一本40を三本、洗濯石鹼1, 40銭余。午後十時近くまで、ミワさん澄子と咄しさる。

昭和15年10月17日（木）

神嘗祭。九時頃朝食。五時前ミワさん教会行き。十時より出発。武石ふとん店にて既製品を調べ、松屋にて更に物色。松屋では掛け蒲団と敷き蒲団と格別に値段を附してあるが、求める方の心は一方のみを購入する者少なく、一度に上も下も求めるが常であるから、武石店式の方がピンと来ると思ふ。瀬戸物でも何でも継げる、護謨靴も修繕可能、火にも水にも耐えると云う液を、一円にて求め、母堂の防寒上衣20、腰巻き、尺90銭六尺三寸づつ

二口。お午餐は抜きにして三時過ぎ飯宅。夜天麩羅、是れには少々胃障碍を来たせしらる。猶飯途、武石にて蒲団七十余円、及び丹前二十余円、計百円の買い物をなし、午後六時頃再び至り、駅まで搬んで貰ふ。余よりも一足早く着き居たり。六時過ぎより約一時間発車なし。此の間切符売らぬ。其の為め大分待たされ、一着に切符を求め手荷物として発送。宅扱いとす。七時飯宅。皆活動に行く、150渡す。腹持ち悪く、多く微痛を感ず。早く寝る。

昭和15年10月18日（金）

護国神社臨時大祭。陛下御親拝。十時十五分、此の朝もミワさん教会行き。市内商店休み。九時より吉塚行き三十分待ち、九時三十分発車参宮鉄道に乗る。往復50。宇美八幡、駅より五六丁。産湯の水を頂き、腹帯60を求め、駅まで至るに、猶一時間近き待合いあり。裏の松林に入りて休息。0時25分発車、夫れより東公園に至り、松樹の下にて愛国パン三ヶを頂き、一ヶをミワさんに遣る。お握りも、剩りしものは総て持行くよう話す。それより箱崎八幡に詣じ、此所にて安産のお守りを頂き、千代町まで徒歩。電車にて博多駅に到り、ミワさんは巖への土産、飴60求め来らる。猶局員へも夫々、50銭前後の帯紐求めらる。三時三分発車、座席ありしらしく駅売りにより注意さる。此朝、胃内の停滞汚物を吐瀉、腹部の膨脹感を排泄したるも、猶残留しある如し。夜一杯に止む。二日の連休は快晴に恵まる。

昭和15年10月19日（土）

曇り、朝下痢。腸満を下す。一碗のみにて食わず。昨夜

よりゲンノショウコを煎じて呉る。これにて幾分恢復せしか。午後より降雨。新体制に伴ふて、寸地も耕耘（こううん）、野菜を播種（はしゅ）することとなり、簗島土流の堤防をも利用し、立派に野菜が繁茂され、隣家の空き地も何日の間にか周囲に柵を拵へて、野菜が整然と植えられてあり。バラック屋根も撤去されあるを見る。

昭和15年10月20日（日）

夜もすから降雨。黎明と共に歇み、曇天の儘、終始す。此日、福日主催四王寺山踏陟（とうちやく）の壮挙、十時迄に宇美八幡前に集合の予定。果たして予期の参加を得られしや疑わし。澄子、余は明日飯津すしものと思料したる如し。十時半、秀夫来たり。色々咄す。一時過ぎて飯る。澄子等隣家に赴き、昼飯も与ひ得ざりし。

昭和15年10月21日（月）

朝十時半頃より、次第に晴れ渡る。其の間、多少降雨ありて乾物蔵ひなどす。今日帝都観兵式、聖上臨御、勅語を賜う。夕方まで晴れたり曇ったり。ズボン一昨日より膝上げたるを乾かす。尚、乾燥せず。向上誌を読む。家の中より一步も外出せず。

昭和15年10月22日（火）

靖国神社臨時大祭は昨日にて終わり、本日より三日間、例大祭が行われる。此日曇り、時々晴れ。澄子等、隣家の正岡さんと午前中より外出。松屋へ葉書にて、先日の「蒲団の値段を掛敷きを格別にしあるを、合同して附けて貰ひたい。そして中に入れてある綿の種類、及び量目を掲記して欲しい」と。それから南支派遣北野純一氏

「まこと」誌を添ひて発送。照宮様、太宰府神社への参拝を取止め、都府楼趾観世音寺に成らせられ、九大長沼教授の御説明を聴し召され、三時過ぎ栄屋旅館に入らせらる。澄子等、御通過筋にて御迎え申上げたりと。四時頃飯り、夕飯の仕度に忙し。

昭和15年10月23日（水）

午前中晴れ、後曇り。四時頃より細雨。昨夜より道子に手紙書き、大いに貢の潔白を賞揚す。夜七時、澄子の手紙に同封す。久子市場へ、澄子も一緒に出掛く。澄子一足早く来る。道子より小包到着。柿餅、煎餅、半襟、東京絵葉書、箸、浅草海苔あり。照宮様午後一時三十分、松居織工場に成らせらる。香椎及び箱崎は御取止め、西戸崎炭坑御見学。西公園にて展望。松居織工場にては宮様御成後、一般人にも開放するとのことにて、正岡さんより使いありしも、平常着の儘故、辞退せる如し。夜は素麺頂く。宮様午後七時三十七分急行、御帰京遊ばさる。年金参円受取り。向上誌一年分と相殺。振替にて発送せり。今日は雑誌見る暇なかりし。

昭和15年10月24日（木）

夜半より降雨、陽の射すこともあり。陽が射しつつも時雨るることもありて、秋の気配多くなりぬ。午後より駒次へ手紙認む。人間道読む。誰も外出せぬらし。十時寝床。莫産一枚を敷きつつ、夜降雨す。

昭和15年10月25日（金）

夜風強く、硝子戸を振るわす。天気予報の如く寒くなる。時々晴れなるも、概して曇天。十時、久子と一緒に市場

行き。鱈二尾70、素麺24二把求め帰宅。料理も遣る。神柴3求め御供えす。此朝、昨夜書きたる駒次への書状及び森田玉五郎氏への「まこと」発送する為、新柳町まで持行き、局にて投函。公衆溜まり多数居る。局員女子六、配置されあり。夕方気温降下、毛布を纏ふ。光誌、一日にて読了。中間藤行のも半ば済ます。

昭和15年10月26日（土）

快晴。冷氣可なり強し。澄子上着用のジャケツ取出し、裕も出してセルと交換せしむ。蒲団毛布等、陽に晒す。野辺賢助、同良助、松本米治氏に手紙認め、夕方発送して貰ふ。夕食素麺頂く。

昭和15年10月27日（日）

冷氣強し。快晴、毛布朝より乾す。剃刀研ぐ。澄子に理髪して貰ふ。髯剃り未だし。久子外出。澄子は市場行き、鯛を求め来たり。更に豆腐殻をも求め、鯛を加味す。蟹数尾其の俣煮たるも余は頂かざりし。久子六時外出先より帰宅。柿（渋多し）苺等、苺は根付き。移植の為、菊の花等も携え来る。正岡さん母堂、朝鮮より明日帰宅する由。十時前寝る。チョッキ毛糸、澄子に修繕して貰ふ。

昭和15年10月28日（月）

寒気緩和、寝巻着用の必要もなし。朝髯剃り。袴羽織、帯等持参。腹懸けも着用。ラジオ今朝障碍。九時十二分発列車。冬服外套着、無帽。重箱に御穀（おから）を詰めて貰ふて持参。0時30分着。中氏を宮永二丁目に訪ふて、通帳の無効処分の分を借用。六時過ぎ皆活動に行く。伊勢さん六時十分帰宅。文書解決を待つもの多し。ミワ

さんは国債売竭（つ）くしの為に奔走。成績良し。快晴。下駄箱、十三円出来て据付けあり。道子元氣の旨、手紙ありしと。活動は十時近く終了。

昭和15年10月29日（火）

曇り、二時頃より降雨。余、切手請取りに赴く。雨降り出す模様、飯りに遂に降り出し多少濡る。其の後歇みかけたも、四時頃より本降りとなる。昨夜伊勢さんの姑、迎えに来たりつつ遂に行違いになる。此日早く飯れと諭す。中津局主催、市役所逡信局連合活動映画あり。西牟田さん来たり、六時十七分辞去。夫れより森田さん等夕食を済まし、ミワさんと母堂を残し公会堂の映画会に行く。電報原書整理す。午前中代引き小包不足、徴収金追徴方の為、小倉商会に至る。ミワさん角野医かかり行かる。活動は十時近く閉会。

昭和15年10月30日（水）

降雨夜半まで続き、黎明歇む。午前九時頃より快晴となる。中畑ムツ年金受取方慥憑の為、中殿町に至り、飯途小倉商会行き一旦帰局。受取作成、再び赴き引換に20円受取り来る。序でに栄町に行き、曩に電話室構築の指物師かかり行き、障子戸注文す。猶、栄町局に至りしに、局長、窓口事務担当し居る。振替金額不足受入れに対する処理方を質し、不明の儘、青果市場に貯金を41口受領飯局。500円国債一、貯債五十枚到着。ミワさん売却に東奔西走す。野口氏等外出、着物裏地求めに。証券保管多し。伊勢さん五時過ぎ帰宅。此朝も甘藷頂き、飯食はず。母、丹前を調製下さる。

昭和15年10月31日（木）

快晴、割合暖かなり。代印者廃止方、釜山管理所来照に依り、豊田町一丁目に行く。切手受取りにも行く。太田岩吉氏より、礼状と四銭切手帖二冊送付越しあり。曩に十月十七日、東吉富村長矢頭軍司より、二十六日午後二時、同村小学校校庭に於いて、仏式により故軍曹太田岩男氏の村葬を営む由、通知あり。生憎不在の為、出席不可能の儘、挨拶もし居らざりしもの。ミワさん各方面に貯債持廻り大活躍の処、切手元売り捌きに於いて、五円弱欠損。午前八時より多忙、新聞中途にして出勤す。夜十時近くまで出局。